

富津市グループの取組み

— 水産多面的機能発揮対策 —

1. 地域の概要

当グループが活動する千葉県富津市は、房総半島の中西部東京湾岸に位置し、海岸線は南北40キロに及ぶ。東京湾に突出した富津岬は、関東の天の橋立といわれ、南房総国定公園に指定されており、海水浴や潮干狩りに首都圏から多くの観光客が訪れる。

富津市の沿岸漁業は、ノリ養殖業を主として、底曳網、刺し網、潜水器漁などが営まれており、富津漁協の組合員数は185人（平成25年度）となっている。



2. 地域(干潟)の現状と課題

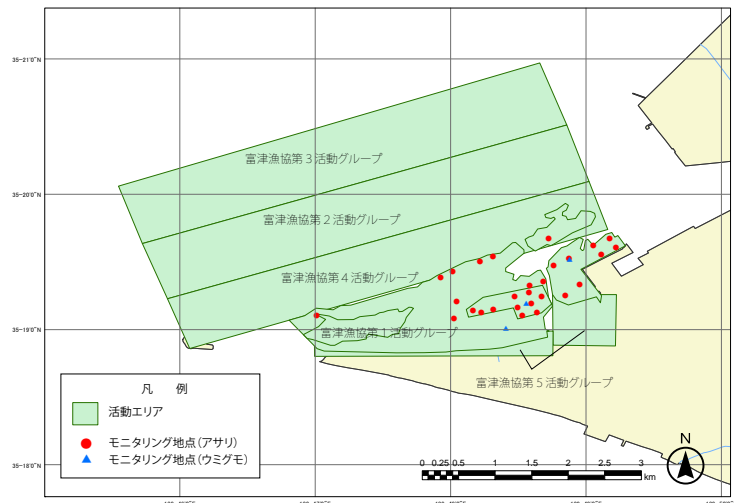
平成16年以降、採貝漁業の主要種であったアサリの水揚量が激減し、現在も低迷状態が続いている。原因として、私達は冬期の波浪、ツメタガイによる食害、カイヤドリウミグモの寄生等による直接的な減耗や、アオサ類の繁茂による干潟・浅場の生息環境の悪化等を考えている。

また、潜水器漁業の主要漁獲物である白ミル（ナミガイ）等も漁獲量が減少傾向にあり、漁業者の間では、エイ類等、魚類による食害が要因の一つと考えている。



3. グループ(活動組織)の概要

上記課題に対応するため、平成23年度から環境・生態系保全対策、平成25年度からは水産多面的機能発揮対策に取り組んでいる。富津漁協の組合員と地域住民を中心として、5つの活動組織を設立し、「富津市グループ」として地域一体となった活動を展開している。



干潟・浅場の保全活動項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	実施組織
客土				←→								第1活動グループ
死殻の除去					←→							第1活動グループ
機能低下を招く生物の除去(腹足類)				←→								第1活動グループ
機能低下を招く生物の除去(魚類)					←→	←→	←→	←→	←→	←→		第3・4活動グループ
機能低下を招く生物の除去(節足類)				←→								第1活動グループ
機能低下を招く生物の除去(その他)				←→		←→	←→					第1・2活動グループ
稚貝の密度管理				←→								第1活動グループ
海洋汚染への対応整備											←→	第2・3・4活動グループ
漂流・漂着物、堆積物処理											←→	全グループ
モニタリング	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	←→	

※機能低下を招く生物の除去のうち、(腹足類)は主にツメタガイとその卵塊を、(節足類)はカイヤドリウミグモを、(魚類)はエイ類、サメ類を、(その他)はホトトギスを中心に除去している。

※第2・第3・第4グループは上記項目の他に、「海難救助訓練」(2月)及び「海洋汚染への対応体制整備」(3月)を実施予定。

4. グループ(活動組織)の活動状況



客土(H26年度は約56m³を投入)



機能低下を招く生物の除去(腹足類)。(H26年度はツメタガイ及びその卵塊を約170kg除去)



機能低下を招く生物の除去(節足類)(曳網によるウミグモ除去)



機能低下を招く生物の除去(魚類)。(H26年度は底曳網により、エイ類、サメ類を除去)



機能低下を招く生物の除去(その他)。(H26年度は潜水によりホトトギスを5540kg除去)



アカエイ



サメ類

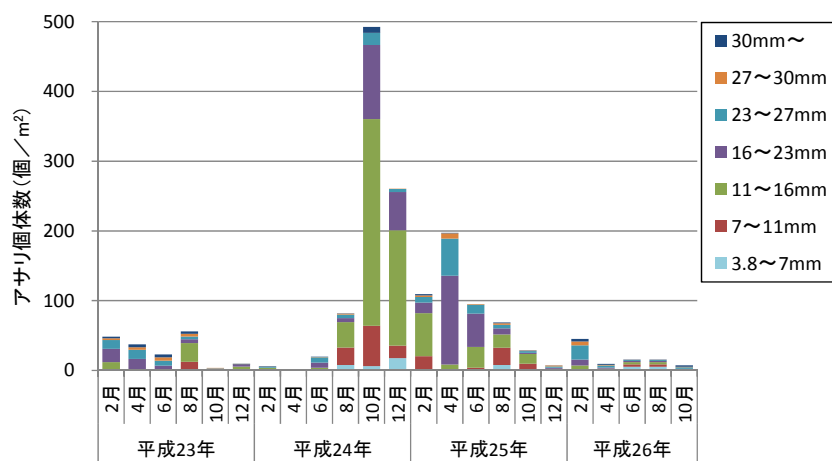
【魚類の胃内容物の確認】

H26年度は、エイ類、サメ類を合計8,850kg除去しました(10月現在)。

除去したエイ類やサメ類の胃内容物を確認した結果、アサリやシロミルの水管が確認されました。アカエイやサメ類は、二枚貝類を主食にしていると言われていましたが、必ずしもそうではなく、時としてアサリやシロミル等の有用二枚貝類もかなり捕食することが確認されました。



確認されたアサリの水管



【モニタリング】

年6回(2ヶ月に1回)、28箇所の定点において、アサリ資源量のモニタリングを実施。腰まき籠に2mmの金網を張り、2m曳いて採集した試料を7段階の篩でふるい分け、各ふるいに残ったアサリ等を計数。

また、月1回程度、3箇所の定点において30個のアサリを採集し、ウミグモが寄生したアサリの個体数(確認率)を計数。